

# 健康メディカル学部 作業療法学科

## 教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。また、大学全体として、全学部生が共通して履修する必修科目、「フレッシュセミナー」「アドバンスセミナー」においては、少人数教育を実践しています。セミナー担当教員は、各学部・学科・コースのCPに基づく学修指導の他、学生生活全般にわたる指導を行っています。これにより学生は、社会人として求められる常識や教養等の汎用的能力と、各自の専攻分野や関心領域に関わる幅広い知識をバランス良く身につけることができます。この「セミナー」は、キャリア教育の一環として、学生の様々な相談にも応じています。

### 【教育方法】

資格取得及び実学の精神に基づき、1年次には病院施設の見学実習（身体・精神・老年期・発達・地域のうち2領域を各3日）を実施し、主に作業療法対象児・者とのコミュニケーション能力を習得修得する機会としています。2年次には臨床評価実習（身体・精神領域を各2週間）そして4年次に総合臨床実習（身体・精神領域・地域・その他のうち2領域を各8週間）を実施し、段階的な臨床実習を行うことで、作業療法士として働く上で必要な実践力が身につくよう工夫をしています。また、各実習後には、学年毎の報告会に加え、全学年合同による事例発表会を実施して、学年を越えて学生同士が学び合う機会を設けています。

### 【教育の特色ある工夫】

- ・「作業療法評価学実習」では、2年次の臨床評価実習に向けたOSCE(Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力評価)を充実させています。実施に際しては、下・上級生をクライエント役にすることで、障害に対する理解を深めることとしています。また、評価者には本学他キャンパスの教員だけではなく学科の卒業生にも依頼する連携体制を構築しています。
- ・国の地域リハビリテーション推進、および障害予防の方針に対応させた本学科独自の科目として、「笑いとセラピー」「ビューティ・リハビリテーション」「動物とセラピー」「音楽とセラピー」を開講しています。また、「老年期作業療法学演習」やボランティア活動の一環として、大学の所在地である豊島区と連携しながら、地域の高齢者に対するリハビリテーションプログラムの企画・運営への協力を活発に行っています。
- ・1年次の「フレッシュセミナー」と3年次の「アドバンスセミナー」において、学年間交流による学生相互が学び合う教育方法を取り入れています。